



6月9日（金）12:50～13:40に、ご参観いただける授業のシラバス（講義内容）を抜粋いたしました。授業をご参観いただく際にご利用ください。（当日にも、印刷した本冊子もお渡しいたします）
なお、ご参観時には以下の点にご留意いただきますようお願いいたします。

- 1

シラバス（講義内容）抜粋

授業名／開催教室	行政学 / 4328 教室
担当教員	藤本 吉則
学類・学年	人文社会学類 2 年
授業の到達目標・到達レベルの目安	・行政学の基礎的な知識を有し、基本的な概念、分析枠組みを理解できる。 ・行政の現状と課題について、論理的に説明できる。 ・行政事象を行政学の観点から考察し、自らの見解を述べることができる。 ・[達成レベルの目安] (S) 上記目標を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた。 (A) 上記目標を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた。 (B) 上記目標を満たし、かつひとつの項目で優秀な学修成果をあげた。 (C) 上記目標を満たす最低限の学修成果をあげた。
授業のテーマ・概要	この授業は「行政の組織・制度」「官僚制」「行政統制・行政責任」など行政学の基本的概念と分析枠組みを学ぶ。国の事例だけではなく宮城県や仙台市など身近な行政も取り上げる。ニュース動画等を活用しながら、時事問題の検討も含め授業をすすめる。社会的背景を踏まえ、行政学の理論枠組みを援用しながら変化しつつある行政を概観していく。

授業名／開催教室	服飾文化論 / 5A 教室
担当教員	玉田 真紀
学類・学年	人文社会学類 3 年
授業の到達目標・到達レベルの目安	服飾（化粧・髪などの装い全般を含む）にはコミュニケーションの役割があり、現代の社会生活を営む上で重要な役割を果たす。そのことを学んだ上で、西洋と日本の服飾文化の両面から、様々な社会環境の中で、どのような服飾がなぜ成立してきたのかを多角的に考える。また、そこで成立した布素材と染織技法、衣服のリサイクル文化についても学ぶ。 【到達目標】 服飾を通して他国の異文化ならびに日本文化に興味を持て、他者理解に役立てることができる。さらに現代の洋装化・既製服化した私達の衣生活について、なぜ現代に至ったかを知り、現代の課題と今後どうありたいかについて、自分の考えが持てることを目指す。 【到達レベルの目安】 (S)服飾のコミュニケーションの働きや、西洋と日本の服飾文化を深く読み解く力があり、他者や異文化の服飾への解釈、今後の服飾の課題について多面的に論述できる。 (A)服飾のコミュニケーションの働きや、西洋と日本の服飾文化をある程度理解し、自分と他者の服飾の解釈、今後の服飾の課題について考えることができる。 (B)服飾のコミュニケーションの働きや服飾文化に興味を持て、自分の服飾と結び付けて考えられる。 (C)服飾のコミュニケーションの働きや服飾文化への理解が浅く、自分の考えを述べる力も不足している。
授業のテーマ・概要	服飾によるコミュニケーションの働き、布・染素材と獲得と変遷、西洋の服飾文化、日本の服飾文化、日本の洋装化の過程、繊維・アパレル産業の構造、布・衣服のリサイクル文化と現代的課題

授業名／開催教室	発達心理学 I（発達の基礎領域） / 5E 教室
担当教員	小泉 嘉子
学類・学年	心理学類 2 年
授業の到達目標・到達レベルの目安	乳幼児期から児童期にかけての発達の 8 領域[人間の発達と臨界期（第 2～6 回）・認知（第 7～8 回）・言語（第 9～10 回）・知能（第 11 回）・運動（第 12 回）・感情（第 13 回）・気質と性格（第 14 回）・遊び（第 15 回）]の定型発達について理解し、子どもの発達を多面的に捉えることができる。 【到達レベルの目安】 (S) 「A」に加えて、発達の課題について自分の言葉で説得的に説明することができる。 (A) 8 つの領域のうち、8 つの領域について十分理解し、子どもの発達を多面的に捉えることができる。 (B) 8 つの領域のうち、8 つの領域について十分理解できる。 (C) 8 つの領域のうち、6 つの領域について十分理解できる。
授業のテーマ・概要	乳幼児期から児童期にかけての発達の 8 領域[人間の発達と臨界期（第 2～6 回）・認知（第 7～8 回）・言語（第 9～10 回）・知能（第 11 回）・運動（第 12 回）・感情（第 13 回）・気質と性格（第 14 回）・遊び（第 15 回）]の定型発達について概説を行う。

授業名／開催教室	公認心理師の職責 / 5B 教室
担当教員	三好 敏之、川端 壮康、渡部 敦子
学類・学年	心理学類 3年
授業の到達目標・到達レベルの目安	国家資格である公認心理師として、現場で貢献し利用者に役立つ心理職になるために、公認心理師の役割、法的義務・倫理、安全の確保、情報の適切な取り扱い、具体的な職務について理解できること。 【到達目標の目安】 (S)公認心理師に必要な、公認心理師の役割、公認心理師の法的義務および倫理、心理に関する支援を要する者の安全の確保・情報の適切な取り扱い、具体的な業務、支援者としてのストレス・マネージメント、他職種連携・地域連携を理解することができる。 (A)学生を少人数のグループに分け、与えられた授業の課題テーマに協同で取り組ませ理解を深めることができる。 (B)授業中に特定のテーマについて学生同士の議論を行い、理解を深める。 (C)与えられたテーマに対して、授業中や授業外学習において、学生自身に ICT 機器調べ理解を深める。
授業のテーマ・概要	国家資格である公認心理師として、現場で貢献し利用者に役立つ心理職になるために、公認心理師の役割、法的義務・倫理、安全の確保、情報の適切な取り扱い、具体的な職務について理解する。

授業名／開催教室	病弱教育論 / 4113 教室
担当教員	能田 昂、小池 敏英
学類・学年	学校教育学類 2年
授業の到達目標・到達レベルの目安	・病弱・身体虚弱教育の歴史的変遷と理念、基本的な制度について理解する。 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（病弱）において編成される教育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラムマネジメントについて理解する。 ・子どもの病気や障害の状態、特性及び心身の発達段階に応じた教育内容と配慮事項の基礎を理解する。 ・子どもの発達の可塑性や子どもの脳・身体の再生力の視点から、病気の子どもへの発達支援と教育のあり方について理解する。 【達成レベルの目安】 (S)下記項目に加え、病気をかかえた子どもの「発達支援」に重要な仕組みや教育的対応について具体的に説明できる。 (A)下記項目に加え、心の病気を含む子ども・若者の疾患の病態と必要な教育的配慮について説明できる。 (B)下記項目に加え、病気をかかえた子どもになぜ教育が必要なのか自分なりに説明できる。 (C)病弱教育の基本的な制度・仕組みを理解する。
授業のテーマ・概要	・病弱・身体虚弱教育の歴史的変遷と理念、基本的な制度について解説する。 ・特別支援学校（病弱）の教育において教育課程が有する意義を解説する。 ・特別支援学校（病弱）の教育実践に即した教育課程の編成と方法とカリキュラム・マネジメントの考え方にについて解説する。 ・子どもの病気や障害、各種困難の実態や特性に応じた教育内容と配慮事項の基礎について、先駆的な教育実践や北欧先進国の動向、最新の研究成果をもとに解説する。

授業名／開催教室	公衆衛生学 I / 4114 教室
担当教員	柳沼 梢
学類・学年	健康栄養学類 2年
授業の到達目標・到達レベルの目安	医療・保健・福祉の問題、環境問題と健康への影響、人口・疾病・死亡などの統計、健康増進のための対策、地域保健など、人間集団の健康を保持増進するための組織的活動とその理念やシステムについて体系的に学習し、総合的に考察できるように理解を深めること。 【達成レベルの目安】 (S)現在のわが国の公衆衛生活動を理解し、説明することができる。 (A)公衆衛生学に関する基本的な概念と内容について理解し、説明することができる。 (B)公衆衛生学に関する基本的な概念と内容について理解することができる。 (C)公衆衛生の基本的な内容について理解することができる。
授業のテーマ・概要	教科書、プリントなどを用いて、公衆衛生学の基礎・基本を学ぶ。

授業名／開催教室	病原微生物学／5D 教室
担当教員	杉山 芳宏
学類・学年	健康栄養学類 3 年
授業の到達目標・到達レベルの目安	管理栄養士の国家試験にも必須の内容であり、公衆衛生や公衆栄養での感染症、ワクチンなどや、人体と機能、臨床栄養の分野での感染症、免疫、アレルギーや、食べ物と健康の分野での食中毒、発酵食品と深くかかわるので、これらを重点的に理解する。とくに重要なキーワードを理解し、その説明等ができるようにすることが目標である。 病原微生物の感染、免疫、アレルギーについて 十分な知識を持ち、実際の現場での対応ができることが最高の到達目標であるが、実際に対応できないにしても、本授業において内容の全体を十分に理解できることが次のレベルの目標であり、少なくとも本授業のキーワードを理解して覚えることが最低限の授業目標となる。 【達成レベルの目安】 (S) 病原微生物学の単語を含めて、授業全体を理解している。 (A) 病原微生物学の単語を含めて、授業全体をおよそ理解している。 (B) 病原微生物学の単語を含めて、授業の重要点は理解している。 (C) 病原微生物学の重要な単語を、少なくとも理解している。
授業のテーマ・概要	病原微生物学では、まず微生物（細菌、原虫、ウイルス、プリオンなど）について理解する。つぎに、感染および免疫について、臨床検査法や抗生物質について、消毒・滅菌法について学ぶ。 また、各論としていろいろな病原体が起す感染症について説明する。

授業名／開催教室	地域栄養活動論／4112 教室
担当教員	山城 秋美
学類・学年	健康栄養学類 3 年
授業の到達目標・到達レベルの目安	地域での栄養活動を行なうための理論と実践を具体的な事例をもとに学び、地域栄養活動に必要な知識やスキルを身につけることができる。さらに、学びの成果を臨地実習Ⅳでの実践につなげ、公衆栄養マネジメントを行なうことのできる力を養うことができる。 【達成レベルの目安】 (S) 積極的に授業に取組み、健康の維持増進を目的とした理論と実践について必要なスキルを身に付け、公衆栄養マネジメントを行うための理解を深められる。 (A) 積極的に授業に取組み、健康の維持増進を目的とした理論と実践について必要なスキルを身に付け、関係機関の連携・協働の必要性が理解できる。 (B) 健康の維持増進を目的とした理論と実践について必要なスキルを身に付け、地域活動の連携の必要性を説明できる。 (C) 健康の維持増進を目的とした理論と実践について必要なスキルを身に付け、関係機関の必要性を説明できる。
授業のテーマ・概要	行政の管理栄養士として勤務した経験から、集団や地域の健康づくりの視点による健康増進・栄養政策、栄養改善活動を展開する。地域のすべての人を対象に、健康づくりを通して地域づくりを推進するため、座学を中心とした学習を進めるが、事業立案については地域の課題抽出の仕方などレポートを課し、習熟度を確認する。実際の栄養指導の場面を想定した地域活動について理解を深める。地域栄養活動に関係する種々の理論と地域での実践例を連動させて進める。 行政機関の管理栄養士の実務経験を持つ教員が担当する。